

*A-110 Free Trader*

A-110 型自由貿易船

# *MEGA TRAVELLER*

Science -Fiction Adventure  
in the Far Future

CG softs: Shade8.5, Poser6J & Vue9



## A110型自由貿易船

A110型自由貿易船は、膨大なタイプが存在するFTLジャンプ1，最大加速度1Gクラスの200Dt小型貨客船の一つである。同性能の200Dtの宇宙船は、帝国領内で既に把握できないほどの数の種類が就役している。200Dt級の自由貿易船は、恒星間航行に必要な基本性能を有しており、自由貿易商人、様々な規模の恒星間貿易会社や恒星間郵船会社により建造されている。

メガコーポレーションや準メガコーポレーションは、新船を建造するが、安全性や整備性の面から法的な耐用年数が近づくとこれらの宇宙船を退役商船員達に恩典として放出する。自由貿易商人の多くはこの中古放出船を運用している。これらの恩典宇宙船は、企業にとって自活してくれる系列会社であり、恒星間貿易戦争を勝ち抜くためのネットワークとして欠かすことができない存在となっている。

多くの自由貿易船が上記のような経緯を経ているため、旧式の自由貿易船が多数就役している。減価償却は通常40年で行われるが、100年に渡りメンテナンス、改良をほどこされ、就役し続けている船も少なくない。



星間貿易が盛んな星域では、何人かの投資家達が**共同企業体**を作って自由貿易船を建造する場合もある。保険会社、投資コンサルタント会社、地方の貿易会社等の援助を受ける場合もある。

共同企業体は、出資者により選出された**運営委員会**により運用される。この委員達は、船の設計、乗員の選定、自由貿易商船の経営に対して議決権を有することとなる。船が就役すると共同企業体の実務上の執行は**運営委員会**が指名する船長に一任される。船長が委員の一人となる場合もある。

共同企業体の自由貿易船の収入及び支出は、船長が管理する共同企業体会計を通して行われる。乗員の給与、燃料、整備費等はこの共同企業体会計から支出される。また収入は全てこの共同企業体会計に組み入れられる。共同企業体会計は、出資者への返済を他の全ての支出に優先する第1の責務としている。余剰金は年の終わりまで基金に蓄えられる。**定期整備費**を支出した後、余剰金は共同企業体会計の規程に基づき配分される。

**個人**が数十 Mcr もの資金を捻出できることは稀であり、多くの場合、長期ローンが組まれることになるが、その場合には銀行、保険会社の厳しい審査を受けねばならず、投資コンサルタント会社からの推薦状も必要となる。

## A110 Free Trader

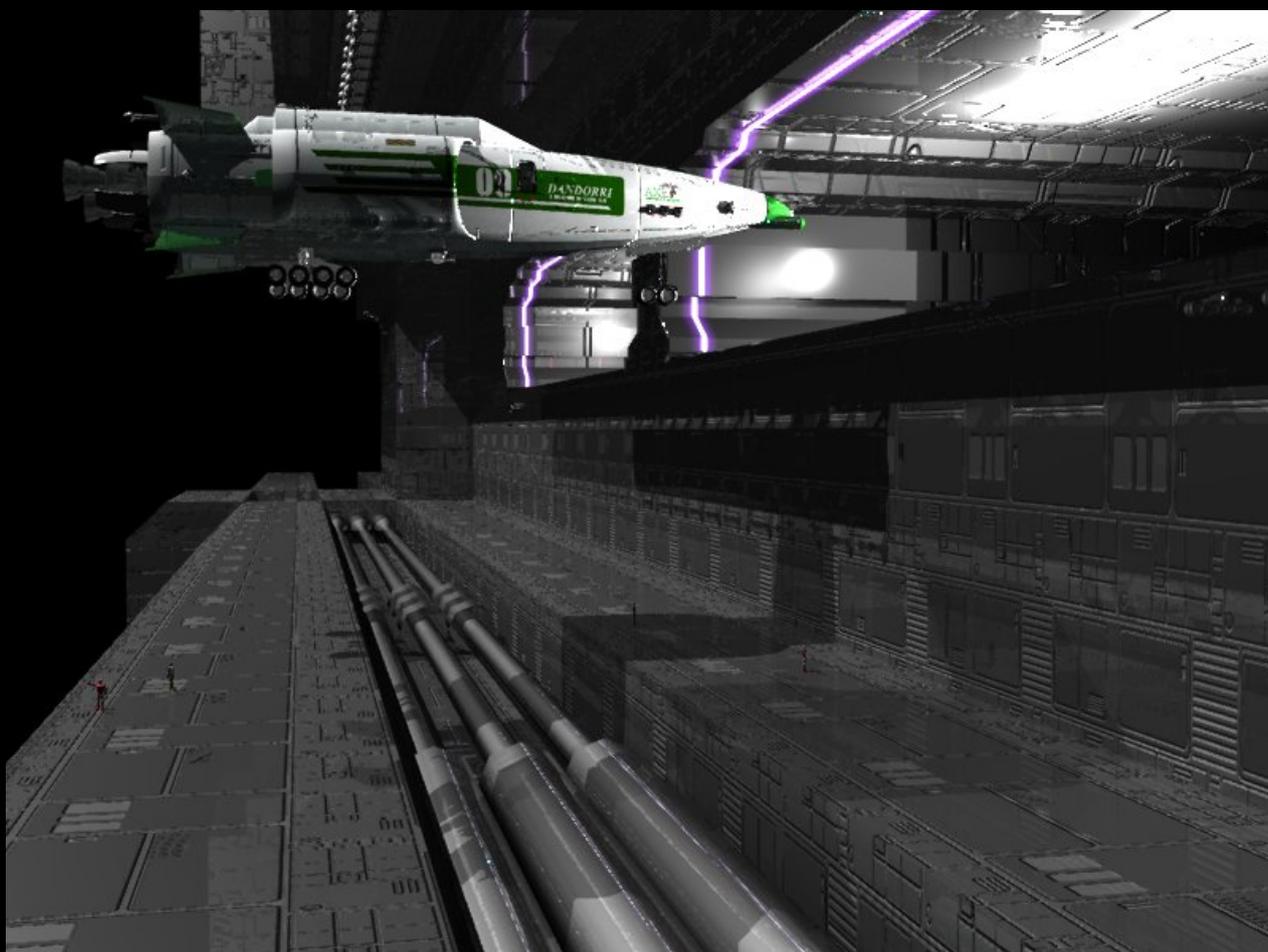
200dt Free Trader, Jump 1, 1G : MASA Starship Yard, Glisten, Glisten



A110型自由貿易船は、様々な自由貿易船の中の最新タイプの一つである。MASA社が建造する200dtの汎用貨客船であり、近年、この種の宇宙船において提案されるパッケージプランの一つとして、グリッスン星域周辺で最も多用されているタイプである。

基本設計は、モータに本拠を構えるMASA社であるが、MASA社は破格のライセンス料で設計仕様、生産プログラムを中小造船各社に提供している。これにより製品はまたたくまに星域中に広まった。またそのバリエーションも相当な数にのぼっている。

MASA社は、長期使用を念頭に置き、設計の基本段階でこのクラスに十分な拡張性、改造容易性を盛り込んでおり、各種装備の多段階のバージョンアップに耐えられるよう、ハードウェアの設置、船内配線、アクセスパネルの設置を行っている。このクラスは、FTLジャンプ2パーセクの派生型も有している。



MASA社の一連の自由貿易船シリーズは、頑強さと信頼性の高さが売りであり、A110型自由貿易船も例外ではない。近年、MASA社の大型艦艇部門が良好な受注実績を挙げているが、その背景には、各種商船で培ったMASA社の高い信頼性が影響を及ぼしていることは間違いない。

A110型自由貿易船は、第5次辺境戦争後の民間船舶の被害を穴埋めするために、大量に建造されており、海軍や偵察局の補助金による建造も進んでいる。海軍や偵察局から補助金を受けたタイプは、有事における徴用を想定して幾つかの区画が軍仕様で設計し直されている。



# A110 Free Trader

200dt Free Trader, Jump 1, 1G : MASA Starship Yard, Glisten, Glisten

## A110 型政府指定客船のデッキプラン

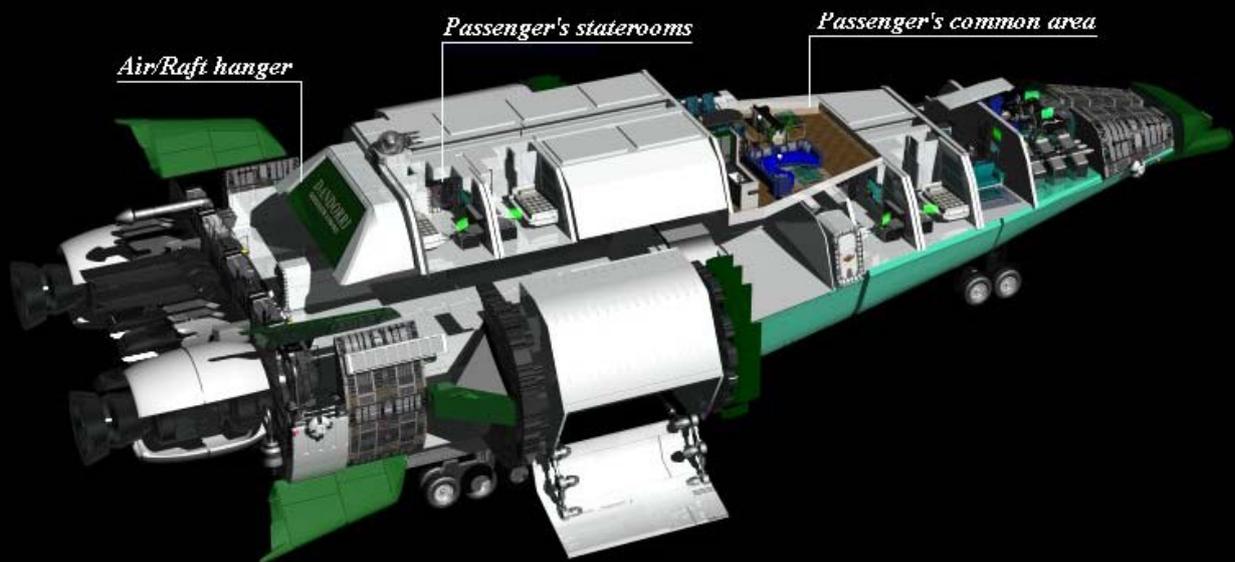
A110 型自由貿易船は、3層構造の複雑な構造であるため、船内を詳述する前に簡単にデッキプランを提示する。船は上部からA～Cデッキとなっている。

### A-DECK

乗客共用室：乗客用の共用室であり、左舷側にダイニングが、右舷側にリクライニングスペースが設けられている。天井が傾斜している。床下と壁面下部に自動食料倉庫が設置されている。乗客の食料はここに全て納められる。自動調理された食料がスチュワードロボットにより給仕され提供される。

乗客用専用室：片舷に4室ずつ設けられている乗客用専用室で8室ある。壁面が傾斜している構造となっている。

エアラフト格納庫：4tエアラフトの格納庫で、ここから乗船する場合、直接乗客用区画の廊下に入り込むことができる。



# B-DECK

船橋：船の制御区画であり、船を制御する全ての機能が集約されている。

乗員用共用室：乗員用の共用室であり、左舷側にダイニングが、右舷側にリクライニングスペースが設けられている。天井が傾斜している。床下と壁面下部に自動食料倉庫が設置されている。乗員用の食料はここに全て納められる。自動調理された食料がスチュワードロボットにより給仕され提供される。

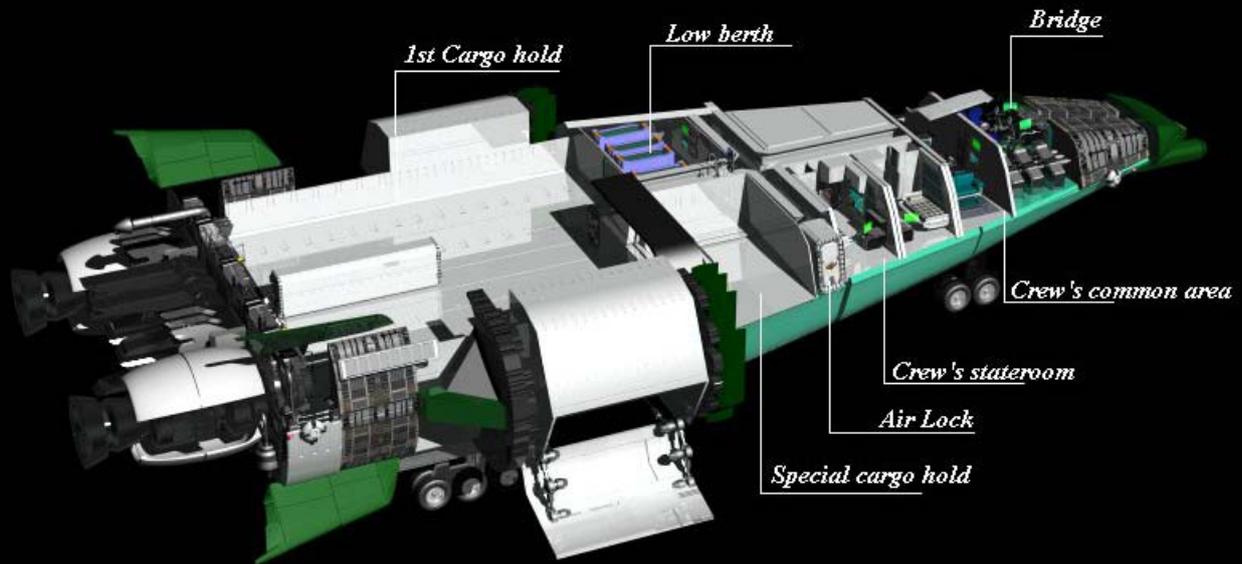
乗員用専用室：片舷に2室ずつ設けられている乗員用の専用室である。

エアロック：港にドッキングしているときは左舷エアロックがメインゲートになる。ここには宇宙服や船外作業装備も収容されている。右舷側エアロックは通常は使用されない。緊急用のエアロックで機能は左舷側と同じである。

二等寝台：二等寝台8基、緊急用二等寝台1基が備え付けられている。

特殊貨物倉庫：ばら積み貨物、特殊貨物、危険貨物、環境に制約される貨物等を収納するための倉庫である。

第1貨物船倉：上部貨物船倉で、4 t コンテナを片舷に5個ずつ計10個積載することができる。コンテナ移動の便宜を図るため貫通通路の中央部分は伸縮式になっている。



# C-DECK

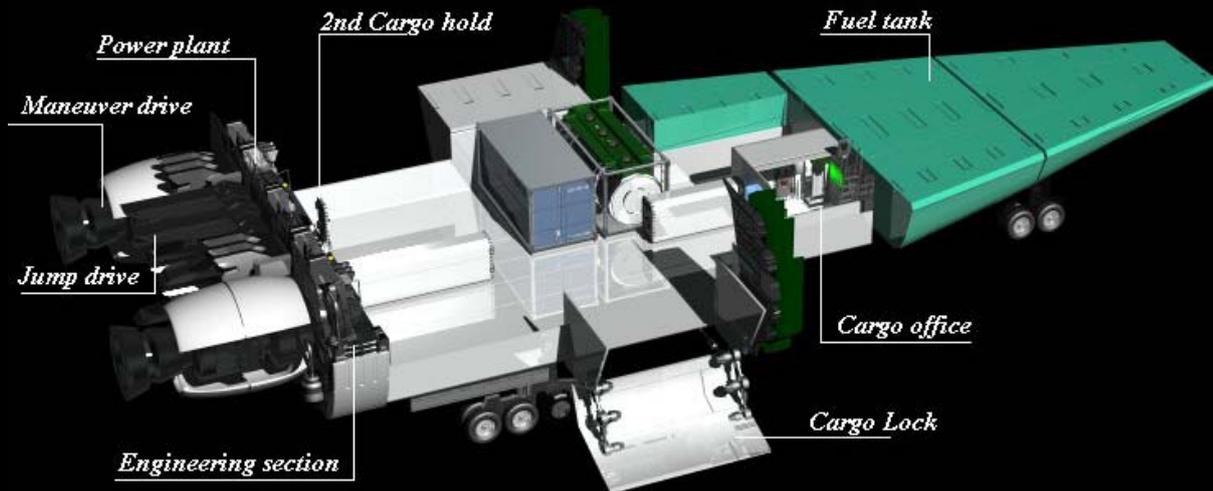
燃料タンク：船体各所に32 tの燃料タンクが設けられている。

貨物管理室：貨物船倉全体を管理する区画である。

貨物用エアロック：貨物を搬入するためのエアロック兼反重カシャフトである。ここから搬入されたコンテナが第1，第2貨物船倉に振り分けられる。

第2貨物船倉：上部貨物船倉で、4 tコンテナを片舷に5個ずつ計10個積載することができる。コンテナ移動の便宜を図るため貫通通路の中央部分は伸縮式になっている。

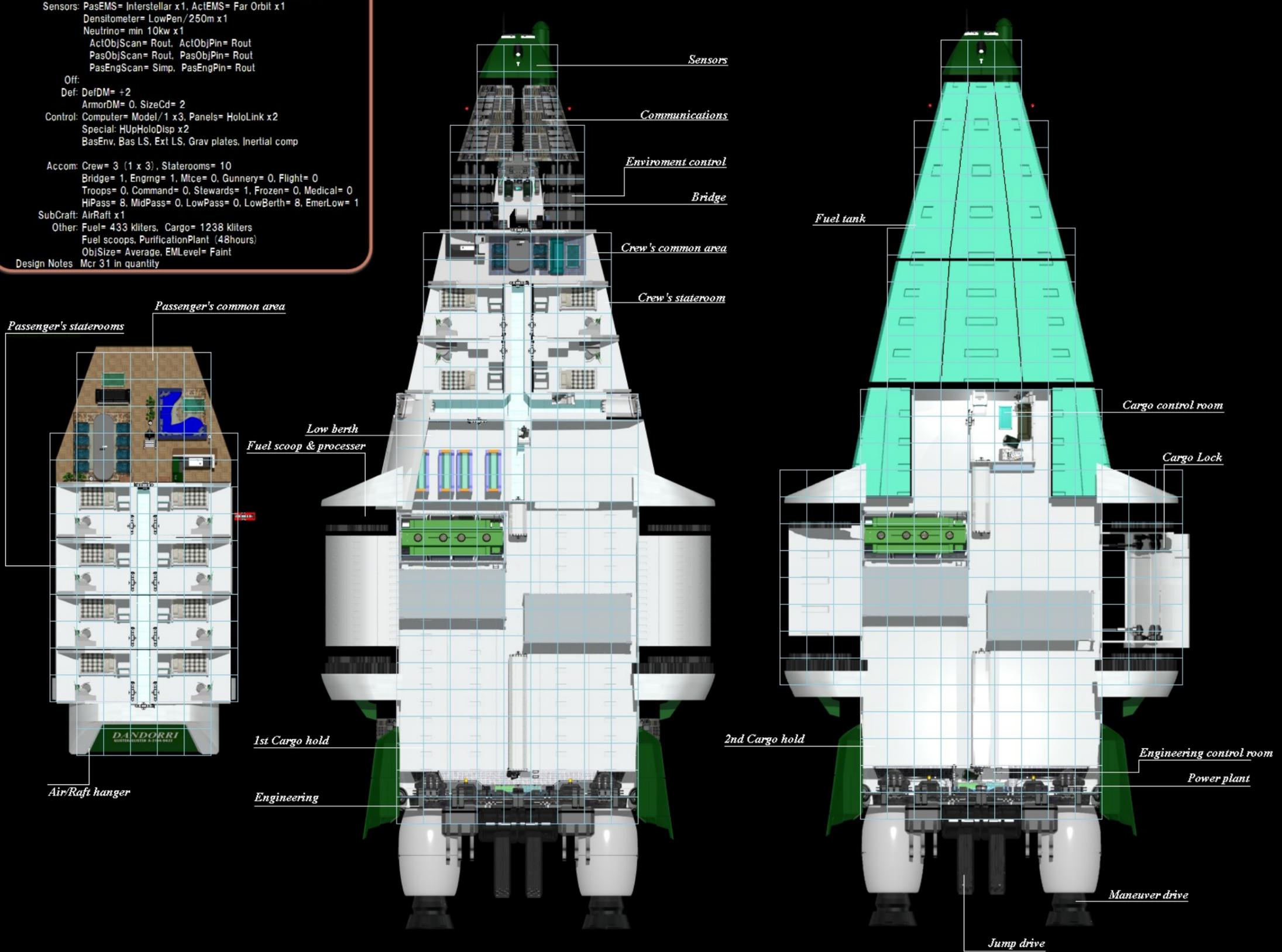
エンジニアリング区画：2層吹き抜けの空間で、ドライブ機器が収納されている。



# A-110 class Merchant

MASA/MASA04's A-110-class Marchant from MASA.Ship's

CraftID: A-110, Type Marchant, TL 15, MCr 39  
 Hull: 180/450, Disp= 200, Config= 4SL, Armor= 40G  
 Unloaded= 840 tons, Loaded= 2108 tons  
 Power: 2/4, Fusion= 486 MW, Duration= 28/84  
 Loco: 4/7, Maneuver= 1  
 4/7, Jump= 1  
 NOE= 190, Cruise= 750, Top= 1000, Vacuum= 1200  
 Agility= 0  
 Commo: Radio= System x1, Laser= System x1, Maser= System x1  
 Sensors: PasEMS= Interstellar x1, ActEMS= Far Orbit x1  
 Densitometer= LowPen/250m x1  
 Neutrino= min 10kw x1  
 ActObjScan= Rout, ActObjPin= Rout  
 PasObjScan= Rout, PasObjPin= Rout  
 PasEngScan= Simp, PasEngPin= Rout  
 Off:  
 Def: DefDM= +2  
 ArmorDM= 0, SizeCd= 2  
 Control: Computer= Model/1 x3, Panels= HoloLink x2  
 Special: HUpHoloDisp x2  
 BasEnv, Bas LS, Ext LS, Grav plates, Inertial comp  
 Accom: Crew= 3 (1 x 3), Staterooms= 10  
 Bridge= 1, Engmg= 1, Mtce= 0, Gunnery= 0, Flight= 0  
 Troops= 0, Command= 0, Stewards= 1, Frozen= 0, Medical= 0  
 HiPass= 8, MidPass= 0, LowPass= 0, LowBerth= 8, EmerLow= 3  
 SubCraft: AirRaft x1  
 Other: Fuel= 433 kliters, Cargo= 1238 kliters  
 Fuel scoops, PurificationPlant (48hours)  
 ObjSize= Average, EMLLevel= Faint  
 Design Notes MCr 31 in quantity



## A110 型自由貿易船の詳細

下記に **A110 型自由貿易船** 及び **A210 型自由貿易船** の諸元を示す。本項では、以下、A110 型自由貿易船を中心に詳細を紹介するが、A210 型自由貿易船の諸元についてもここで触れておく。

A210 型自由貿易船は、ジャンプドライブと燃料タンクを増加させたタイプで、ジャンプ2の性能を有する代わりに船倉を減少させている。

### A110 型自由貿易船諸元表

MASA/MASA04's A-110-class Marchant from MASA.Ship's

CraftID: A-110, Type Marchant, TL 15, MCr 39  
Hull: 180/450, Disp= 200, Config= 4SL, Armor= 40G  
Unloaded= 840 tons, Loaded= 2108 tons  
Power: 2/4, Fusion= 486 MW, Duration= 28/84  
Loco: 4/7, Maneuver= 1  
4/7, Jump= 1  
NOE= 190, Cruise= 750, Top= 1000, Vacuum= 1200  
Agility= 0  
Commo: Radio= System x1, Laser= System x1, Maser= System x1  
Sensors: PasEMS= Interstellar x1, ActEMS= Far Orbit x1  
Densitometer= LowPen/250m x1  
Neutrino= min 10kw x1  
ActObjScan= Rout, ActObjPin= Rout  
PasObjScan= Rout, PasObjPin= Rout  
PasEngScan= Simp, PasEngPin= Rout  
Off:  
Def: DefDM= +2  
ArmorDM= 0, SizeCd= 2  
Control: Computer= Model/1 x3, Panels= HoloLink x2  
Special: HUpHoloDisp x2  
BasEnv, Bas LS, Ext LS, Grav plates, Inertial comp  
  
Accom: Crew= 3 (1 x 3), Staterooms= 10  
Bridge= 1, Engmg= 1, Mtce= 0, Gunnery= 0, Flight= 0  
Troops= 0, Command= 0, Stewards= 1, Frozen= 0, Medical= 0  
HiPass= 8, MidPass= 0, LowPass= 0, LowBerth= 8, EmerLow= 1  
SubCraft: AirRaft x1  
Other: Fuel= 433 kliters, Cargo= 1238 kliters  
Fuel scoops, PurificationPlant (48hours)  
ObjSize= Average, EMLevel= Faint  
Design Notes MCr 31 in quantity

## A210 型自由貿易船諸元表

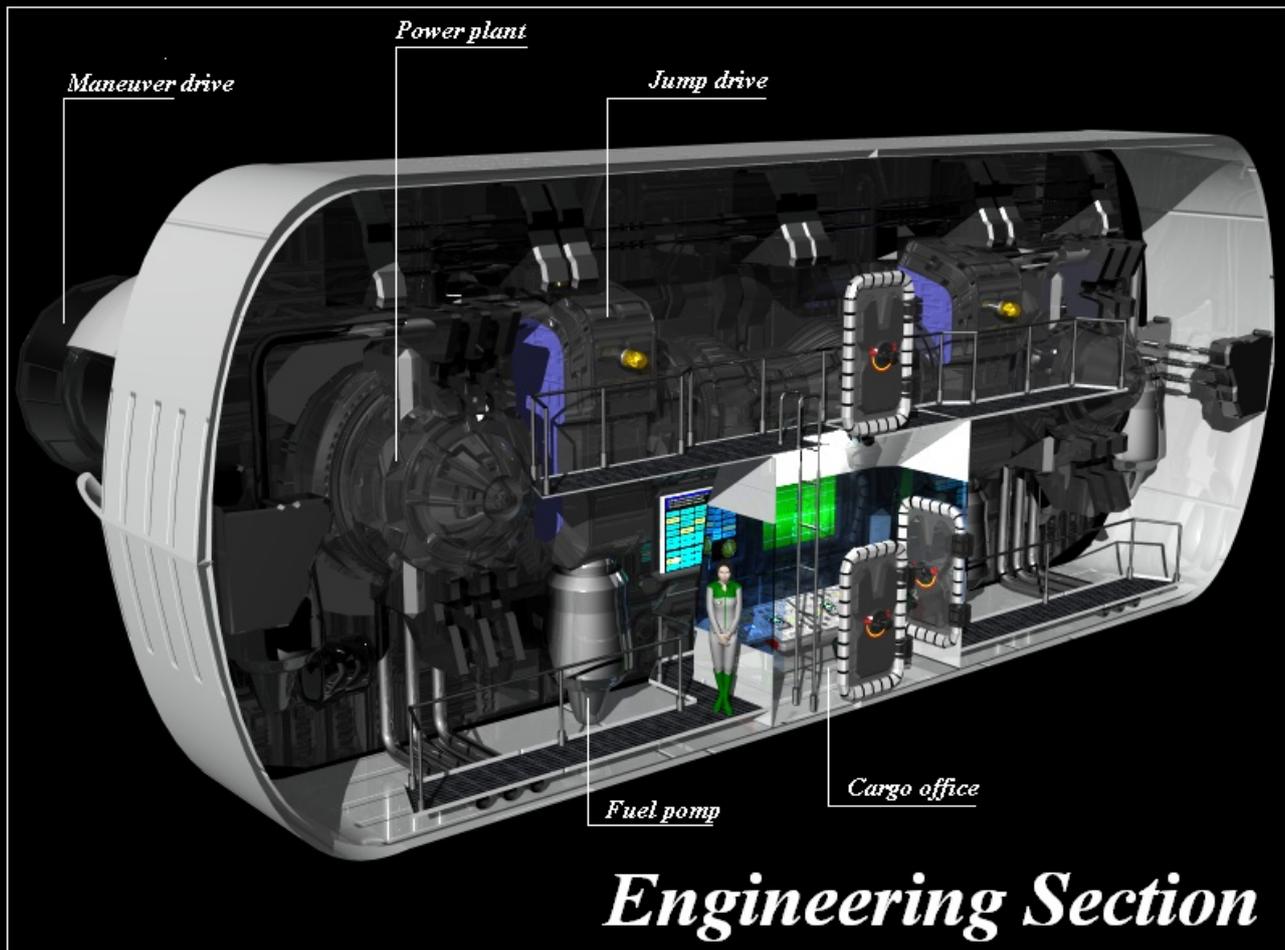
MASA/MASAO4's A-210-class Marchant from MASA.Ship's

CraftID: A-210, Type Marchant, TL 15, MCr 50  
Hull: 180/450, Disp= 200, Config= 4SL, Armor= 40G  
Unloaded= 901 tons, Loaded= 2010 tons  
Power: 2/4, Fusion= 486 MW, Duration= 28/84  
Loco: 4/7, Maneuver= 1  
5/11, Jump= 2  
NOE= 190, Cruise= 750, Top= 1000, Vacuum= 1200  
Agility= 0  
Commo: Radio= System x1, Laser= System x1, Maser= System x1  
Sensors: PasEMS= Interstellar x1, ActEMS= Far Orbit x1  
Densitometer= LowPen/250m x1  
Neutrino= min 10kw x1  
ActObjScan= Rout, ActObjPin= Rout  
PasObjScan= Rout, PasObjPin= Rout  
PasEngScan= Simp, PasEngPin= Rout  
Off:  
Def: DefDM= +3  
ArmorDM= 0, SizeCd= 2  
Batt 0  
Bear 0  
Control: Computer= Model/2 x3, Panels= HoloLink x2  
Special: HUpHoloDisp x2  
BasEnv, Bas LS, Ext LS, Grav plates, Inertial comp  
Accom: Crew= 3 (1 x 3), Staterooms= 10  
Bridge= 1, Engrng= 1, Mtce= 0, Gunnery= 0, Flight= 0  
Troops= 0, Command= 0, Stewards= 1, Frozen= 0, Medical= 0  
HiPass= 8, MidPass= 0, LowPass= 0, LowBerth= 8, EmerLow= 1  
SubCraft: AirRaft x1  
Other: Fuel= 568 kliters, Cargo= 1069 kliters  
Fuel scoops, PurificationPlant (48hours)  
ObjSize= Average, EMLevel= Faint  
Design Notes MCr 40 in quantity

**A110 型自由貿易船**は、方形流線形船体で、全長51m、全幅22.5m、全高9.5m、総排水素200dt、重量840t、満載重量2108tである。船体は**結合超密素材**、通称G種別鋼を用いた40レベルの装甲板に覆われている。船体は、ガスジャイアントからの燃料補給を容易とするため、**流線形**化されている。

本級の主機は**243Mwの核融合炉2基**で、100Dt/1G級のダブルインパルス型スラスト通常ドライブ2基とそれぞれ組み合わせられ、船尾に配置されている。恒星間航行能力は**1パーセク**で100Dt/1パーセク級の超光速ジャンプドライブユニット2基が船尾に配置されている。これらの機関ユニットは容易に取り外すことができ、整備性が高い。

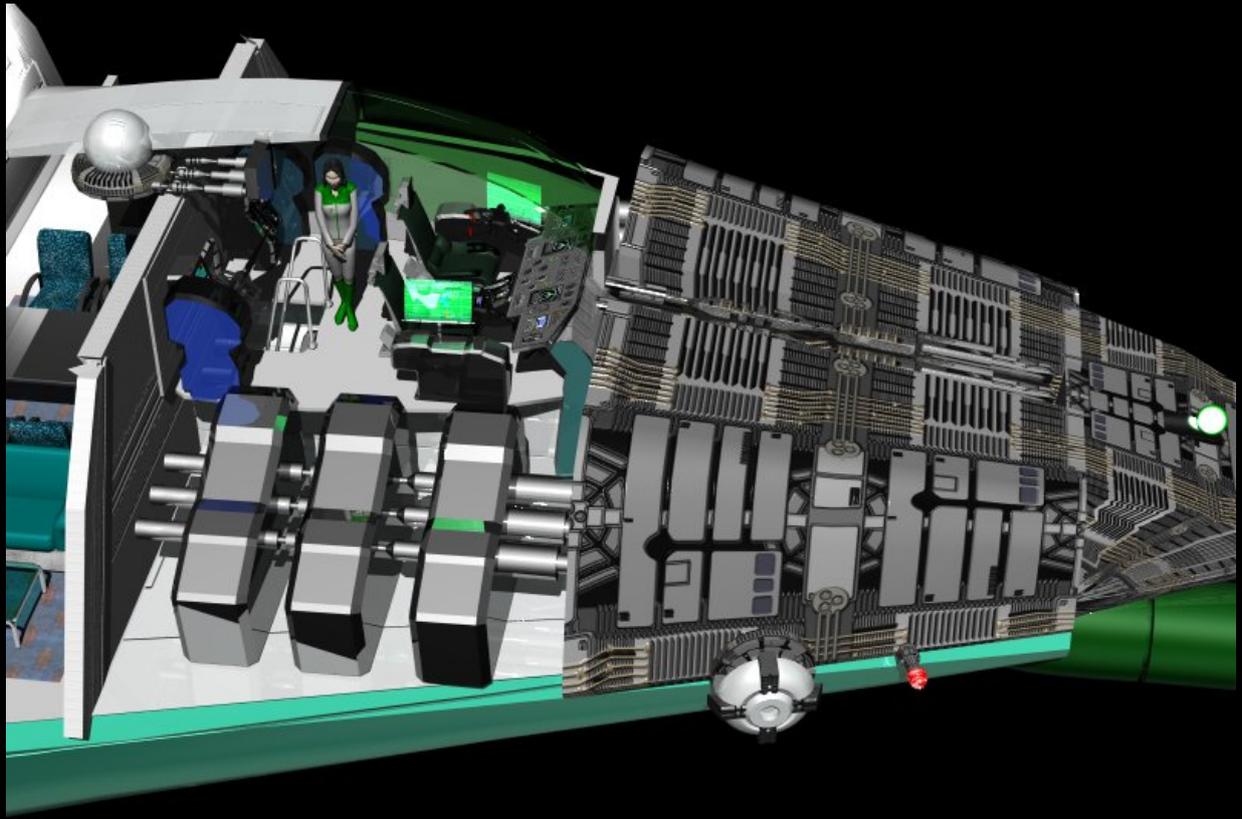
これらの主機は、船尾に設けられた2層吹き抜けのドライブスペースに収められている。ドライブスペースへのアクセスは各デッキから可能であるが、基本的に航海中はCデッキからアクセスすることとなる。



通信機器には、電波通信装置 (SYSTEM) RS-15A, レーザー通信装置 (SYSTEM) LS-15A, メーザー通信装置 (SYSTEM) MRS-15A を1機ずつ装備している。

探知機には、受動EMS (Interstellar) PEMSF-IS/8, 能動EMS (Far Orbit) AEMSF-FO/7, 質量探知機低レベル (250 m) DSF-Lw25, 中間子探知機最小10kw NSF-10 を1機ずつ装備している。

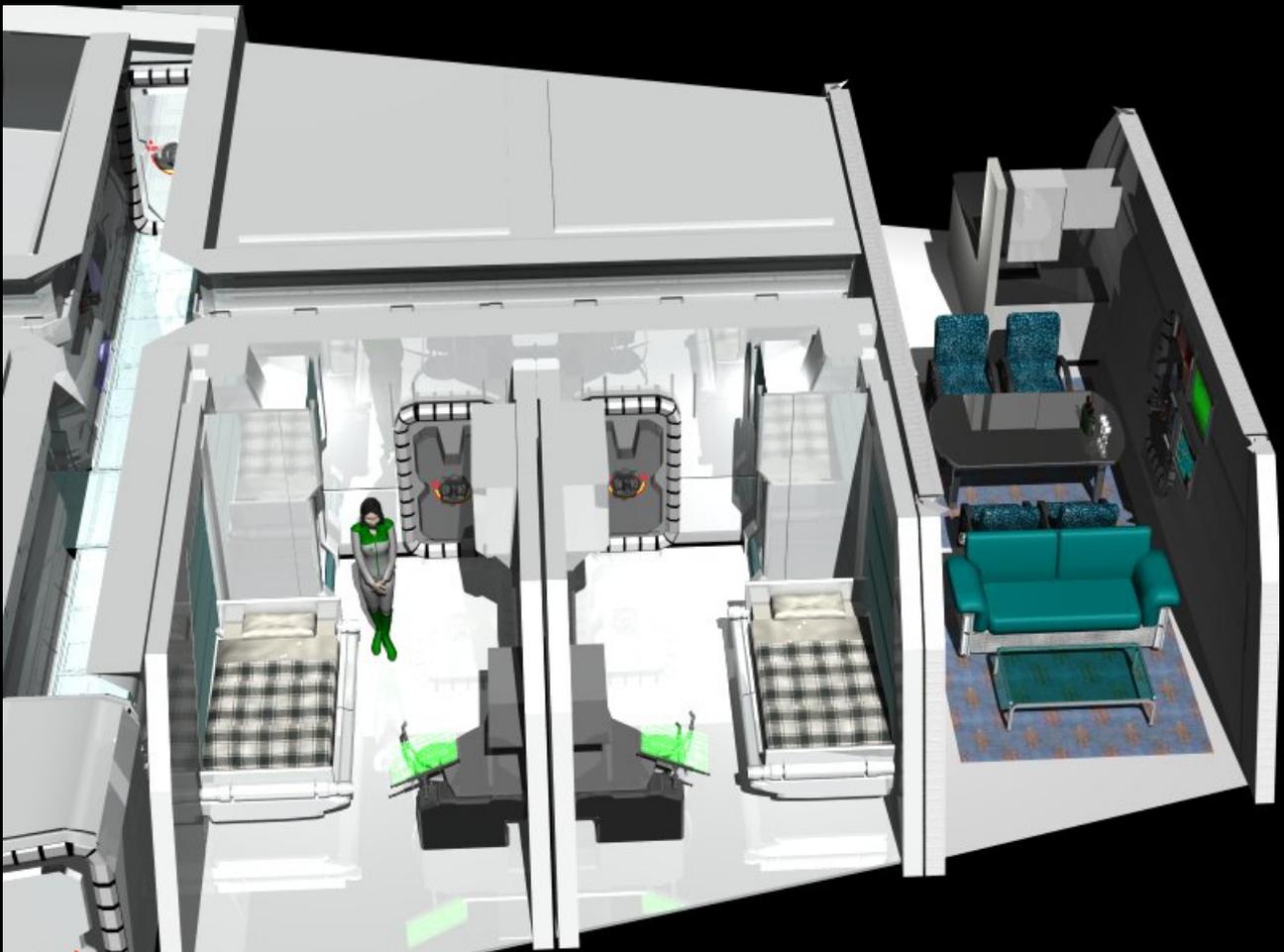
武器設置点は、2箇所設けられているが武装の程度は様々である。武器設置点は船体上部と下部にそれぞれ設けられている。



制御機器としては、**モデル1型コンピューター3基**が搭載されている。予備コンピューターは装備されていない。船の制御は全てBデッキの船橋で集中制御される。各所の砲塔も船橋からの遠隔操作となっている。

Bデッキの船橋には、操舵装置、航海計器など操船に必要な装置が集中している。また、機関、通信機器、探知機、兵器の遠隔操作端末もここに集中している。

船内の環境は、基本環境システム、基本生命維持システム、上級生命維持システム、重力制御プレート、慣性中和装置などの各システムで保たれている。



乗組員は、航海1名、エンジニア1名、スチュワード1名である。乗組員区画は、共用室と4つの専用室に仕切られている。乗員3名の場合、船主が大きな専用室を設けている場合が多い。この乗組員区画の天井は傾斜しており平均2.25mとなっている。この乗組員区画は航海中立ち入り禁止となる。



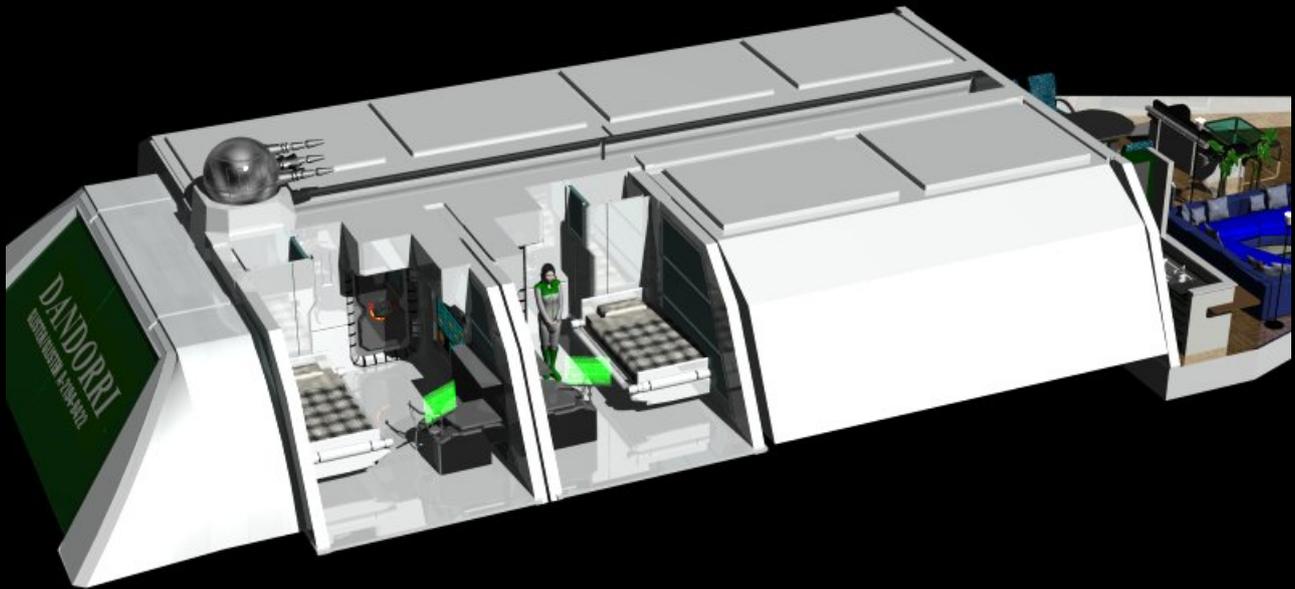
乗組員用共用室はダイニングサロンとして利用される。航海が始まると乗組員区間と乗客区間は切り離される。ハイジャック防止プログラムが装備されており、船内はくまなくコンピューターにより監視されている。簡単なキッチンとテーブル、ソファセットが置かれている。家具類は床下の個室に収納することができる。壁面には船外や望む風景を立体投影することができる。フィットネスなどの目的にも使用できる。

共用室の左舷側がギャラリーとなっている。基本的に料理は全自動なので、ここでは簡易な作業しか行われない。料理は、壁面下部の食糧庫から運びだされる。



専用室は 3m×3m の広さである。専用室には、一般に 4 つの機能が求められるが、乗組員用の専用室には、それらの機能がコンパクトにまとめられている。4 つの機能とは、睡眠、食事、衛生、娯楽である。具体的な機能については、後述する乗客用専用室を参照のこと。

乗組員用専用室の内装は簡素である。自由貿易船の乗組員用個室は同時に家でもあり、様々な個人所有品に溢れている。軍艦と異なり船室に関しては規律は緩い。違法行為でない限り船長は乗組員の個室に関しては干渉しないのが不文律となっている。



A110型自由貿易船は、Aデッキ前部に共用室を有しており、後部が客室となっている。また最後部には、エアラフトと格納庫が配置されている。乗客は8名の特等又は一等船客、8名の2等船客である。

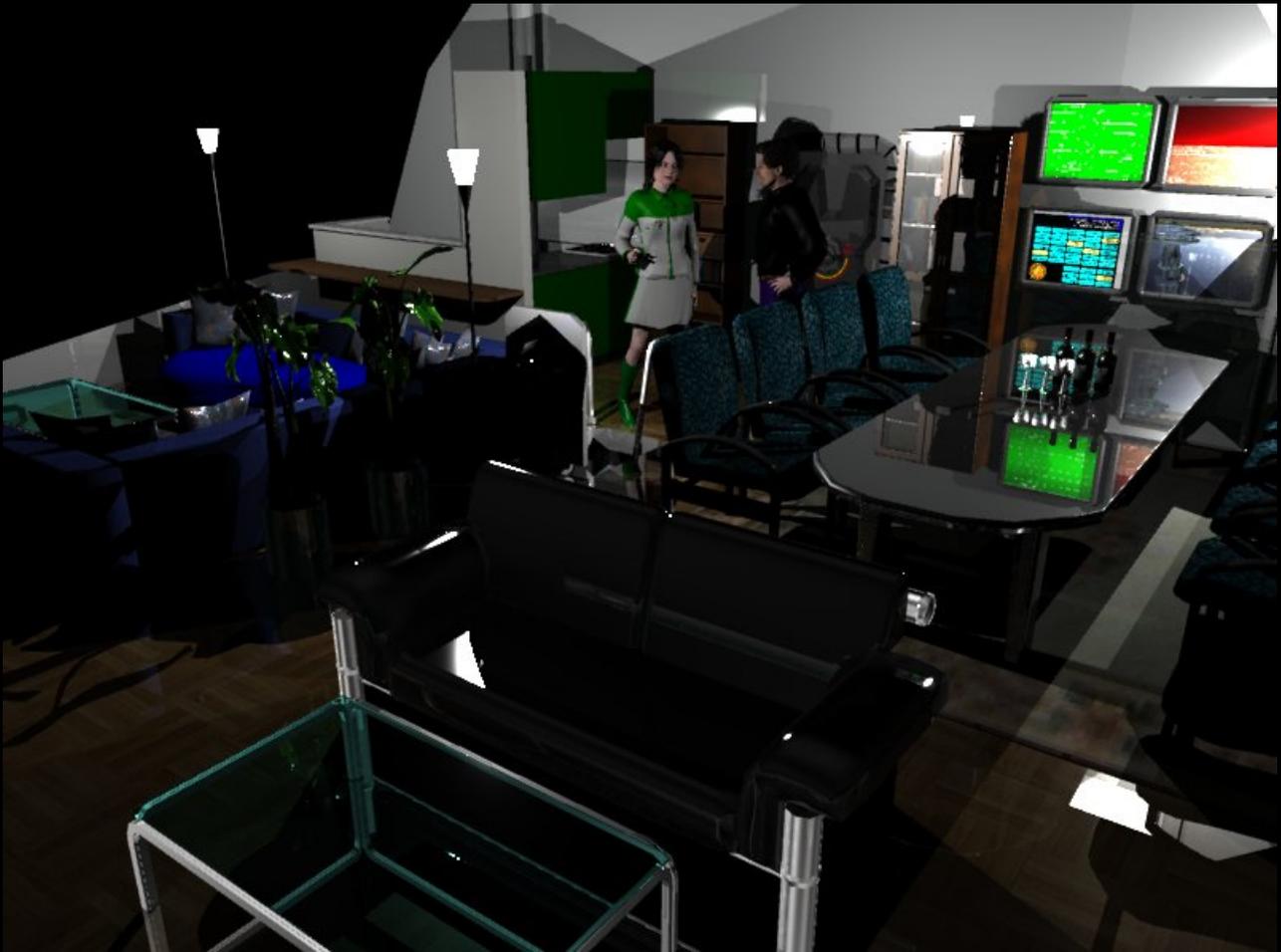
乗客の乗降は通常、Bデッキのエアロックか、Aデッキ最後部のエアラフト格納庫から行われる。Bデッキエアロックから乗船した場合、Bデッキ中央通路に設けられたラッターを登り共用室に通される。エアラフトの場合も同様で、Aデッキ中央通路から共用室に通される。

チェックインは、この共用室でウェルカムドリンクが振舞われながらソファで行われる。ウェルカムドリンクを飲み終わると客室に案内される。



共用室はダイニングサロン、ダンスフロアー、エンターテイメントエリア等、様々な用途に合わせて切り替えて利用することができる。家具類は床下の個室に収納することができる。壁面には船外や望む風景を立体投影することができる。通常はラウンジとして使われているが、利用目的に応じて貸切とすることもできる。会議、商談、ゲーム、フィットネスなどの目的に応じて使い分けられる。

共用室の後部右舷側がギャレーとなっている。基本的に料理は全自動なので、ここでは簡易な作業しか行われない。料理は、壁面下部の食糧庫から運びだされる。通常は、**スチワードロボット**がここを仕切っている。



共用室では、食事ごとにメニューと内装が変更される。このため食事の度に、**ドレスコード**が使い分けられる。ドレスコードの設定は船ごとに異なるが、通常は以下の4区分である。

- ・**フォーマル**（男性はタキシード、女性はドレス）
- ・**セミフォーマル**（男性はスーツ、女性はワンピース）
- ・**スマートカジュアル**（ジャケット程度着用）
- ・**カジュアル**（襟付きシャツ着用）

メニューやドレスコードが気に入らない場合には、自身の専用室で**ルームサービス**を利用することとなる。

船首ラウンジのダイニングテーブルは通常、右舷側に用意される。**船長主催の正餐**はコンピューターの定めた配席に基づき一斉に始められる。

船長主催の正餐は航海の最初の夜と、最後の夜に実施される。その他の食事の場合、乗客は食事の時間とメニューを船内コンピューターに予め予約することとなる。朝食はビュッフ形式が多い。

船首ラウンジの右舷側には、寛げるソファセットが置かれている。食後はこちらに移動してデザートや食後のワイン、喫茶を楽しむ。



船首ラウンジへの入り口となる中央通路の両側には、寄港先の惑星にちなんだ様々な絵画や彫像が調度品として飾られている。

後方の客室エリアには、片舷に4室ずつ専用室が設けられている。専用室は3m×3mの広さである。専用室には、一般に4つの機能が求められるが、標準専用室には、それらの機能がコンパクトにまとめられている。4つの機能とは、睡眠、食事、衛生、娯楽である。この他、専用室には手荷物の収納スペースも求められる。



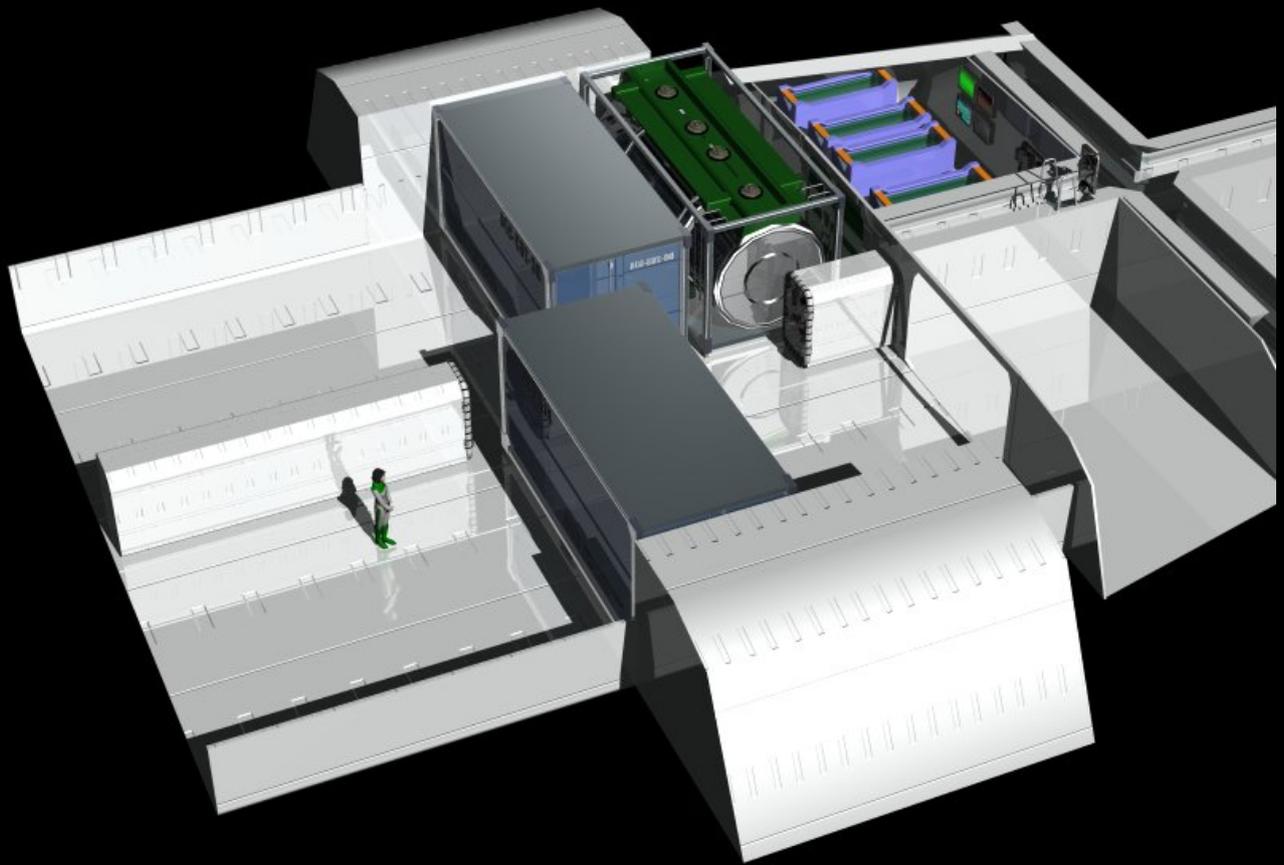
**睡眠**については、標準サイズのベッドが備えられている。コマンドにより壁に収納できる折り畳み式で、0-1.5Gの重力調整機能を有している。

**食事**については、折りたたみ式のテーブルと椅子で、4人が同時に食事できる。部屋で食事をする場合には、食事はラウンジから運ばれてくる。部屋には小型冷蔵庫が備えられており、急な要望に対してスナックと軽食が提供できるようになっている。

**衛生**については、フレッシュューが備えられている。フレッシュャーには、多機能シャワー、トイレ、洗面台、ドライヤーなどから構成されている。全ての装備は折り畳んで邪魔にならないように収納できる。

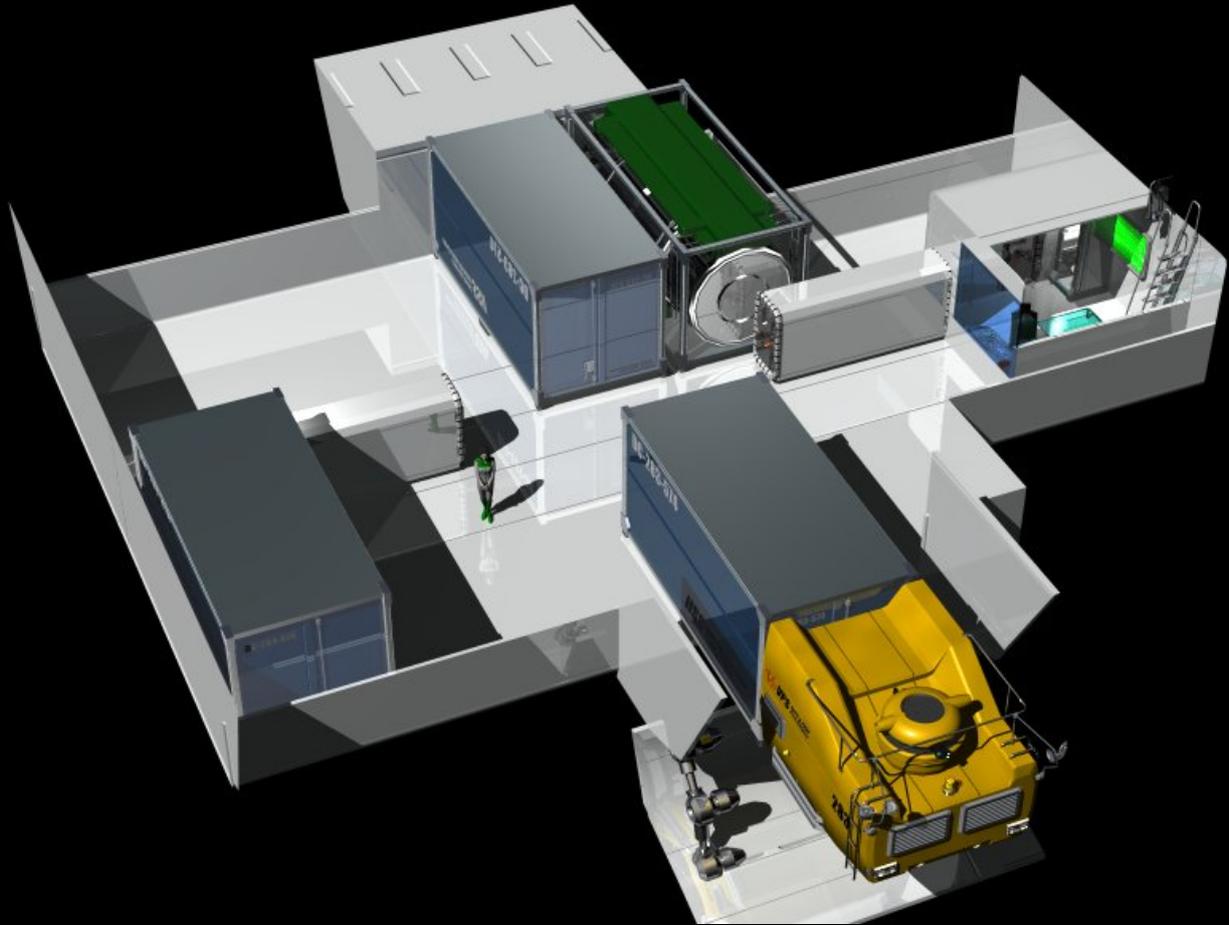
**娯楽**は、ジャンプ航海には欠かせない要素の一つである。娯楽の種類は、ホログラフ映像の他、船コンピューターや他の旅客とのゲーム対戦、船のコンピューターのライブラリーデータへのアクセスなどが可能である。

手荷物の収納は重量100kgまでを各専用室における。残り900kgは貨物室におかれる。乗員の立会いのもの貨物室から何時でも荷物を取り出せる。



Bデッキ左舷側には、二等寝台8基、緊急用二等寝台1基が設置されている。このクラスの自由貿易船は、十分な医学技術を有する乗組員を採用できないため、船での冬眠作業は余り推奨できない。可能であれば宇宙港の共同冷・解凍施設を利用する方がよい。宇宙港の冷・解凍施設を利用した場合は、カプセル式の二等寝台がこの位置に運びこまれる。自由貿易船の船主は、手間のかかる二等寝台を嫌い、特殊貨物船倉に改装している場合もある。

特殊貨物船倉は、ばらばら貨物、特殊貨物、危険貨物、環境に制約される貨物等を収納するための倉庫である。この船倉は、気圧、気密、重力を自由に制御できるようになっており、様々な用途に使用される。



B, Cデッキは、その大半が貨物船倉となっている。貨物室には20個の標準型コンテナを収納することができる。貨物デッキは標準型の4tコンテナを並べ拘束できるように作られている。貨物ハッチは、両舷に設けられており、反重力リフターが直接船内までコンテナを運び込むことができる。通常この区画は空気を抜かれ真空とされる場合が多い。貨物デッキの中央には幅75cm、高さ2mのメンテナンス通路が設けられており、船尾の機関室まで通じている。この通路は、コンテナ移動の便宜を図るため貫通通路の中央部分は伸縮式になっている。

Cデッキ右舷には貨物管理室が設けられている。船首右舷側には貨物デッキ管理室が設けられており、貨物デッキの気密、重力制御を行うことができる。また航海中は船の事務室としても活用される。停泊中は、船長や事務長がこの部屋から世界のデータベースにアクセスして自由貿易を行う。左舷側にも船室があるが通常は部品倉庫として用いられている。貨物管理室はラッタルで上部の乗員用区画と通じている。





輸送機器として、エアラフト 1 機を搭載している。エアラフトの格納庫はAデッキ後部に設けられている。収益を上げるためにエアラフトを搭載していない場合も多い。ここを客室、貨物室に作り変えている船主も多い。

---



# A110 Free Trader

200dt Free Trader, Jump L, 1G: MASA Starship Yard, Glisten, Glisten

# Credits

---

## Staff

Ship Design: MAG

CG Models: MAG

Web Master: 化夢宇留仁

---

## Generators

Ship Design: Cray Bush's Worksheet for Lotus 123

---

## 3D Modeling

M4 Models: Shade 8.5

Rendering: Shade 8.5, Vue5

---